

自然観察指導員養成計画2030の紹介

日本自然保護協会（以下、NACS-J）の自然観察指導員の養成事業は2018年で40周年を迎えました。40年を超え、これからの時代に最大限に価値を発揮する自然保護教育者を養成・支援すべく、自然観察指導員の位置づけやこれからの時代で発揮したい価値を、講習会講師・外部協力者と共に改めて整理しました。整理では、自然観察指導員とは何なのかという根本的なふりかえりから始め、外部や内部環境の分析を踏まえ、「自然観察指導員養成計画2030」として2030年度末までに実施する計画骨子案を作成しました。

2020年1月の全国大会では、2030年に私たちがかなえたい社会像（ビジョン）を実現するための行動を皆さんと共に考えます。全国大会でいただいたアイデア・ご意見を受けて、具体的な計画を取りまとめます。本紙のビジョンは自然観察指導員だけでなく自然保護教育・環境教育に関わるみなさんと共に実現したいと思っていますので、ぜひご一読いただき、全国大会をきっかけに新しい時代に一緒に漕ぎだしましょう。

■自然観察指導員養成計画2030のコンセプト

整理から計画案作成、実施時すべてに渡って貫く観点をコンセプトとしてまとめました。下記の囲みにある通り、自らの志と実体験を大切に自然保護教育を行うという自然観察指導員の本質は、創設当初から変わりません。一方、自然保護教育を実現する手段は、時代に応じて、必要であれば最も有効な方法に変えたり、加えたりすることで、本来の目的が叶えられると考えています。本紙を確認したり、ご自身で活動したりする際に下記コンセプトを頭の片隅に置いていただけるととても心強いです。

【コンセプト】

自然観察指導員の本来の価値を、改めて発揮する11年

【創設当時から本計画実施時を通して指導員として不変なこと】

- ・ 指導員は自然保護を目指し、ライフワークとしてできることから行動する存在
- ・ 指導員が実施する観察の機会は、自然のしくみを五感を通して観察し、参加者の発見・体験を主軸に行う
- ・ 無償でも有償でも活動できること
- ・ 指導員は講習会受講を条件に「自発的な意志」を登録する「登録制」である
- ・ よりよい自然保護教育の実施を目指している

■NACS-Jの自然保護教育活動の目的

講習会やテキストでお伝えしてきたものの明文化されてこなかった活動の「目的」を整理しました。

【NACS-Jの自然保護教育活動の目的】

「自然保護につながる自然観を日本に住む人全員が育んでいる」社会を実現するため

■計画づくりのためのふりかえりと、将来予測

【これまでの指導員活動の成果】

未来にむかった計画を考える前に、これまでの活動の成果と価値をふりかえりました。主なものだけが紹介します。この成果は指導員や指導員を応援してくれる方々のおかげで実現できたものです。

- ・ 全国に観察会や自然保護の指導員活動が広がった。
- ・ 「自然観察会」やブナ林の価値啓発に代表されるように、それまでなかった言葉・概念・価値・文化を社会に根付かせた。社会に新たな環境問題を気づかせ、変化のきっかけを作った。
- ・ 緑の回廊やダム撤去など、現場での指導員活動が、様々な日本全体の仕組みの先駆けとなった。
- ・ 県連絡会の支部体制や、特定分野に特化したグループの発足など、高度に組織化され、高いレベルの活動が実現している地域がある。
- ・ 指導員である親を見て育った子世代も指導員として活動するといったように、世代をまたいだ活動が生れている。

【自然保護教育活動を取りまく今・これからの社会状況】

指導員を中心とした自然保護教育・環境教育を取り巻く社会状況を整理しました。近い未来、社会ががらりと変わることがわかりました。本計画で特に関係が深い内容には下線を引いています。

【自然保護教育活動を取りまく今・これからの社会状況】

- ・ 生産年齢人口(15歳～65歳)の減少が著しく、どこも人手不足になる。様々な社会機能が回らなくなり、ボランティアに頼る業界は特に危うい。
- ・ 身近な自然で生物の地域絶滅が進行。地域固有の資源利用・文化の継承が危機的。
- ・ 子どものみならず親世代も自然体験が少ないこと、貧富の差が広がり余裕のない家庭の子どもが増えることの両影響で、自然体験のない人が将来さらに増える。
- ・ 組織や団体に属さずとも、個人で活動しやすい社会になり、組織への帰属意識が減った。個人が単一の役割ではなく様々な役割や顔を持つ“個”の時代になった。

■全国の指導員活動の理想像

自然観察指導員の皆様の活動は自然保護教育に欠かせない存在です。では、全国的に見たとき、どんな状態が持続的で、そして最大の意義を持つのか、について理想的な活動の状態を整理しました。

【全国の指導員活動の理想像】

1. 指導員全員がそれぞれ「自然保護につながる自然観」と自分なりの「マイフィールド」を持ち、自然のしくみ・恵みを実感している人を野外や職場・日常において効果的に増やし続けている。
2. その時代において最重要の自然保護テーマについてのムーブメントを作る発生源になり、価値観や言葉を社会に根付かせている。
3. 優れた自然観察指導員の集団が大切な自然をまもり、人と自然のよい関係を築き、地域の誰もが人生をより豊かにできる場が、全国にくまなく点在している。
4. 意欲・能力を高められる、観察指導員の多様なコミュニティが常にある

<解説>

1について

個人の多様性が増す時代においては、各指導員活動は全国画一的なものや似通ったものよりも、個性や嗜好性を活かし、十人十色の自由で多様な活動こそが価値が高いと考えました。野外でのイベント的な観察会だけでなく、職場や日常においても可能な活動があります。一方で、指導者の多様性が増す中でも全員共通の心として、自然観と、小さくてもよいのでマイフィールド（愛着をもって見守りたいと思える場所・地域のこと）を持って欲しいと考えました。

2について

ムーブメントとは、社会の潮流のことです。過去の例としては、無価値だと考えられていたブナ林の価値を指導員の方が全国に広めた一連の流れがあります。個人が生きる時代では、組織的に動くというよりは、個人が自分の意志で行動し、共感者がまた行動し、社会の流れを作るイメージです。

3について

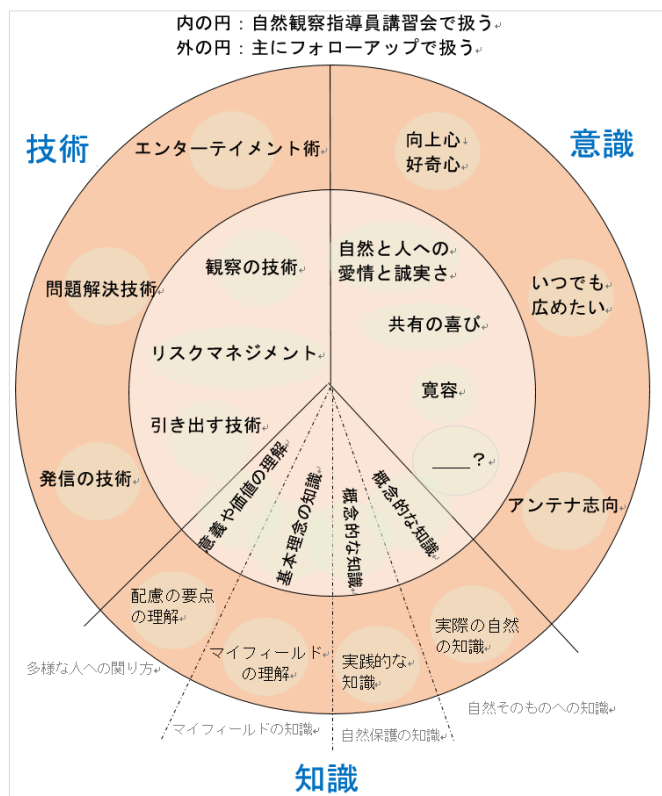
「優れた」とは下記参考の意識・知識・技術を高いレベルで持つという意味です。個人で全て持つことは容易ではないため「集団」としました。自然保護とは、人間も含めた自然を豊かに保ち、自然を高度に利用するという意味です。地域の自然とそれを守る指導員の存在自体が、地域の人の人生や生活をより豊かにできるほどに役立っていれば、自然が大切にされ、自然が守られると考えました。

4について

常に研鑽できる仲間がおり、多様な形でそれがあることが、指導員活動が持続的だと考えました。

参考：指導員全員がもちたい意識・知識・技術

自然観察指導員の方全員がこれからの時代で活躍していただくために、どなたにも持って頂きたい要素として、意識・知識・技術に分けてまとめました。各項目の詳細は追って皆様にお知らせいたします。



■指導員活動の理想像に照らした、現状と課題

【現在の全国的な指導員活動の課題】

上記までの理想的な活動の状態にむけて、どういった課題があるのか整理しました。

- ・ 自然のめぐみを実感できる自然観察会が社会で一般的になっていない。
- ・ 観察会参加は自然好きがほとんどとなっている。
- ・ 個人が注目される時代なのに、指導員個人の魅力や活動が公に見えていない。
- ・ 指導員の人数・活動度が地域によって偏りがある。
- ・ 活動する指導員の高齢化、解散や休止する連絡会が出てきている。
- ・ 新しく指導員登録した方の継続率が低下している。

【課題を生じている原因の仮説】

上記の課題がなぜ生じたのか、課題の影にある原因を仮定しました。この原因を念頭に置いて、計画をつくります。

- ・ 日常生活で自然の恵みを実感していない人が増えている。
- ・ 一般の方に自然観察指導員や観察会のイメージがない、もしくは魅力的でない。
- ・ 講習会後の体系的なフォローアップと、コミュニティー作りの支援が不足している。
- ・ 指導員活動の目的や目指すものなどの指針共有が不足している。
- ・ 自然好きではない人やその子どもを観察会に取り込む工夫が不足している。
- ・ NACS-J事務局が指導員活動を十分に把握していない。

■ビジョン（叶えたい未来のイメージ）

3 ページに掲げた理想像に向かう途中段階として、2030 年度末にどのような状態を叶えていたいの
か、大事で欠かせないものを三つにまとめました。

【自然観察指導員養成事業 2030 ビジョン】

1. 過去には自然観察会と結びついていなかったシーンでも自然のしくみや魅力にき
づける機会が社会に溢れており、境遇や自然への関心の高さにかかわらず多様な
人が参加している。
2. 自然観察指導員によって豊かな自然がまもられ、自然との関わりの少なかった人
でも何度でも行きたくなる、自然の恵みを実感できる魅力的な場所がある。
3. 自然観察指導員は、自然観察や自然保護活動、日常の仕事や生活を通して社会的
に影響力がある存在で本質的にカッコいい、信頼感がある、というイメージが世
代をこえて社会に定着している。

<解説>

1について

日本に住む人全員が自然観を育める状態を実現するためには、「自然ってこんな風になっていたのか、い
いな！」と、気づける入口を広げたい。そのためには生活のあらゆる場面、例えば通勤路、ショッピングセ
ンター、学校、職場といった日常の他、初詣やお葬式、デートや旅行、結婚式などの行事の中に自然を観る
チャンスがあり、誰がどこで何をしても出会ってしまうほど溢れていたらいいなとイメージしました。

2について

自然観を育むには1 回限りの自然体験だけでは不十分なため、「何度でも行きたくなる」と思える自然が
あることが大切です。そのためには、自然のしくみや魅力に気付かせてくれる導き手である自然観察指導員
と、豊かな自然があること、そして何よりも「あそこにそのような場所がある」と社会に知られていること
が前提です。自然好きでなかった老若男女が何度もリピートしてしまうほど、地域で誰もが知る大人気の場
所になっている、そんな場所があり全国に広がりはじめていると素敵だなと考えました。

3について

自然のしくみや価値を伝える指導員の活動がさらに効果を増すためには、腕章を巻いて活動する野外で
の活動はいうまでもなく、「道端の草の魅力を通行人と共有して盛り上がった」「自然に関係ない職場だが、
自然保護に資する認証付きの紙の利用を提案した」「プラスチックではなくおしゃれな竹製品を購入してS
NSにアップした」といったような日常での働きかけが大事だと考えました。多様な角度で指導員的な行動
があることが、時には多くの指導員が同時的にアクションすることが、実は社会にも大きく影響するし、印
象付ける一番の近道でしょう。信頼感がある指導者的なイメージに加え、「身近で素敵なあの人は指導員な
んだ、指導員はいつでも自然にとってよい提案をしているような人なんだ」「（見た目ではなく）本質的にカ
ッコいい」というイメージもできると素敵ではないでしょうか。

■2030 年度末までの目標

本紙で扱う目標とは「ビジョンが叶ったときの成果物・状態であり、定量的なもの」と定義しています。つまりは「ビジョンの実現に欠かせない要素」をまとめたものです。下記の目標には定量的でない（≒本当に達成したのか客観的にわからない）ものも含まれますが、実際に活動する際には達成を図る定量的な指標を別途作り、目標と合わせて使う予定です。

【2030 年度末までの目標】

1. 自然観察や自然とのふれあいを主目的にしていらない参加者が、自然の魅力に気づけるしかけが、NACS-J が関与せずとも社会で広く 2 パターン以上実施されている。
2. 高い意識・知識・技術を持った指導員が大切な自然を守り、多様な個性・境遇・障害を持つ方を含め、誰もが惹きつけられるような魅力的な場所が順調に増えている。
3. 「指導員全員が持ちたい意識・知識・技術」を習得できる講習会・研修会を体系的に実施している。
4. “自然をまもりたくなる価値提示ができる人材”として、自然観察指導員が社会の 2 割の人に認識されている。

<解説>

1 について

ビジョン 1 の「(前略) の機会が社会に溢れており」「自然の関心が低い人も参加している」という内容に関するものです。自然に関心が低い人は自然観察や自然体験イベントには来ません。しかしそういう人にも自然のしくみや魅力に気づいて欲しいと、ビジョンで描いています。そこで、自然とのふれあいではない別の目的やメリットが前面に出ているイベントや機会の中に、自然の魅力に気づく“工夫”や“しかけ”が盛り込まれていて、参加者としては自然観察以外の目的を達成する過程で、知らず知らずのうちに自然の魅力にも気づいていた、という状態をつくりたいと考えています。活動時は自然を消費する内容ではなく、実施すればするほど自然が守られることを前提としたいと思っています。

2019 年度の現在は、上記のような機会は大変少ないとみています。社会にそういった機会が広まるためには、多くの人が自らも実施したいと思える工夫が必要です。そういった工夫が実現した結果として、NACS-J が関与せずとも社会で広く実施されている状態を目指したいと考えました。

2 について

ビジョン 2 に関係した目標です。ビジョン 2 で描いた場所に必要な条件をまとめ、そういった場を作ること自体も魅力的にしたいと思っています。作ることの魅力があれば、場の実現に向けて成長している場所がたくさん誕生し、盛り上がっているのではないかと想定しました。

この場では、自然保護・自然保護教育のために、自然環境や管理状態など“場”の条件だけでなく、教育活動や地域から見たときの存在意義という“機能面”も重視します。ゆくゆくは機能面を表現した（例えば自然とつながるという意味で「コンタクトサイト」等の）名称を付けたいと思っています。赤ちゃんや障害をお持ちの方の他、個性が強くて学校にはなじめない子、仕事でうつになってしまった大人等も含め、何でも行きたいし、実際に行けるような場所と機能を、指導員の方と作りたいし、作る支援をしたいと思っています。

3について

ビジョンすべてに関わる目標です。自然保護教育にとって欠かせない自然観察指導員の皆様には、既存の枠に捕らわれずに自由な発想で多様な活動をしていただきたいと考えています。そんな中で、どんな活動をするにしても必要になると考え、どんな方にも身に着けて欲しい意識・知識・技術（4ページの図参照）については、NACS-Jの方で、指導員講習会の改善と、研修会等のフォローアップを体系的に作り、みなさんが確実に習得できるように支援したいと考えております。

4について

ビジョン3に関わる目標です。本紙の文中で何度も触れてきましたし、すでに皆さんがされている実際の活動を見ても、自然観察指導員は自然観察会だけをする存在ではありません。しかし、一般の方の多くにはそうは認識されていない現状があります。「自然をまもりたくなる価値提示ができる人材」、つまりは自然保護教育をする存在として自然観察指導員の知名度をどんどん上げていきたいと考えています。社会の2割、5人に一人が指導員を知っていて、イメージも的を射ていて好意的という状況ができれば、皆様の活動がよりスムーズで効果的になり、指導員活動、ひいては自然保護教育・環境教育活動が飛躍できるのではないかと期待しています。

以上です。お読みいただき心から感謝申し上げます。

本大会では、このビジョン・目標をかなえるための「アクション」を皆で考えたいと思います。

日本自然保護協会 自然観察指導員養成事業 担当者一同

自然観察指導員養成計画 2030 のビジョンに沿った計画骨子案

開催要項及び当日のしおりと共にお渡しした NACS-J 自然観察指導員養成計画 2030 では根本的な振り返りからはじめ、ビジョン、目標までをまとめました。本紙ではビジョン達成に向けて現在検討を進めている計画骨子案を紹介します。全国大会では、この計画案を参考に、ビジョン・目標達成にあたっての具体的なアイデアを出し合っていただき、皆様の活動の足掛かりにさせていただけると幸いです。全国大会でのアイデアを取り入れて計画案を作りますので、2020年度から実現に向けて一緒にアクションしていきましょう！

■2030 年度末までの計画骨子

ビジョンを実現するために、重要な過程をまとめました。ビジョンと目標、計画の関係は、ビジョンに向かうための“行動の道筋の予定”が計画で、計画を実施して2030年度末にどんな活動や社会になっているとよいかという“成果物や要素”が目標にあたります。

ビジョンの実現にあたり、他組織や異分野にも働きかけつつ、指導員の皆様と共に①興味・境遇に関係せず広く人を自然へ誘う仕掛けづくり、②深く自然観を養う仕掛けづくりに取り組みたいと思っております。そして全国的に取り組みを広げるために欠かせない、③指導員の皆様のフォローアップ、④新規指導員の養成を実施していくという4軸で計画しました。

【2030 年度末までの計画骨子案】

1. 関心・境遇によらず自然の魅力に気付けるきっかけの創出
2. 自然の恵みを実感でき、どんな人も惹きつける場づくり
3. 自然観察指導員のフォローアップ
4. ビジョンに共感する自然観察指導員の新規登録者数を増やす

計画骨子案の詳細は裏面へ

計画1 関心・境遇によらず自然の魅力にきづけるきっかけの創出

“浅く広く、自然に関心を持つ間口を広げる”ことをコンセプトとしています。

1-① 自然観察指導員を社会に好意的にイメージ付けする（ブランディング）

指導員の魅力を知ってもらうべく、希望する指導員個人の活動や経験のWEB上での紹介、指導員や観察会という名称について、より実態をイメージできる愛称の検討、メディアへの露出強化、かっこいい指導員を取り上げる、などなど

1-② 自然との関係が薄い人からなる分野に取り入れられ、好評になる自然観察の機会の掘り起こし・創出と全国への展開

指導員の皆様の“うっかり観察会的なことやっちゃった”事例やアイデアの募集と発信、指導員個人同士が連絡を取り合えるしくみづくり、NACS-Jと他団体が連携した全国に広める共同事業、などなど

1-③ 相対的貧困※に陥った家庭のこどもが参加でき、全国で広げたいような観察会の事業モデルを作る

本事業に携わりたい指導員の方を募集しての実行委員会発足、モデル地域での先導モデル実施、他地域に広める指導員の登録制度づくり、などなど

※相対的貧困とは、家庭で使えるお金がその国の中央値の半分に満たず、国の文化・生活水準と比較して困窮した状態のこと。日本では7人に1人の子どもが該当する。

計画2 自然の恵みを実感できどんな人も惹きつける場づくり

まずは“限られた地域でも、深く、自然保護につながる自然観を持つ方を増やす+身近な自然の保全地の確保”をコンセプトとしています。

自然の恵みを実感できどんな人も惹きつける場づくりの仕組みの検討、機能面にも注目した場の要件の整理と公表、名称の検討、要件を満たせる支援の実施（研修会、集客支援等）、公有緑地がより多く要件を満たすような働きかけ（制度改善、営業、優良事例発信等）

計画3 自然観察指導員のフォローアップ

自然観察指導員の皆様のための“意識・知識・技術を向上できるフォローアップ”をコンセプトにしています。

能力や経験向上のステップアップの様々な道筋の事例紹介、研修会の実施（テーマ例：ネイチャ・フィーリング、リスクマネジメント、イベント的観察会ではない観察の機会実施のコツ、自然の恵みを実感できる観察会とは、等）

計画4 ビジョンに共感する自然観察指導員の新規登録者数を増やす

“仲間である自然観察指導員を増やす”をコンセプトにしています。

指導員全員が持ちたい意識・知識・技術に沿った指導員講習会の改良、各都道府県で身近な存在（1万人に一人）に指導員がいることを目指して指導員講習会を開催し、半数の都道府県で実現させる。（現状は11県で実現済み）、講習会の定員上限・参加費制度・運営方法等の見直し。